

薪

ス

ト

ー

ブ

が

似

合

う

家

シンプルだけど一番贅沢な生活

「私の火」暖かさが違うんです。

火と話ができるんです。

「生活をしている」という実感と一番贅沢な時を

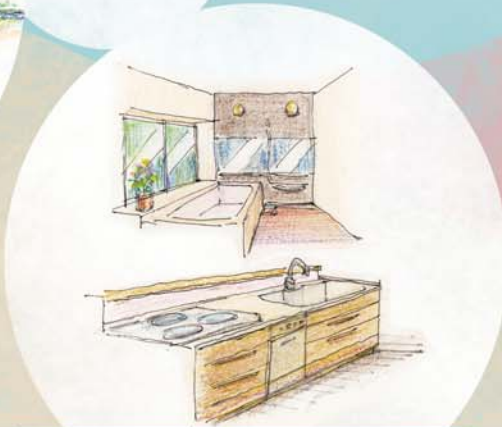
持てたという充実感に満たされます。



3つのポイント



木と土で造ります。

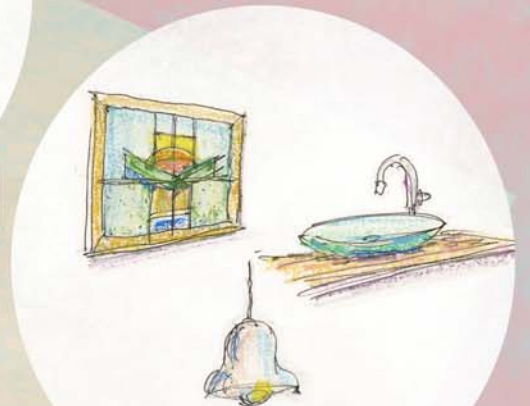


工業化製品に頼らない。

薪ストーブは

人間の自然回帰を

思い起こさせる身近な存在です。



多国籍が隠し味。

薪ストーブの似合う家は、人が自然の一部なのだと言う自覚を家族に植え付けながら、ゆっくりした心安らぐひとときを家族みんなで育む家だと思います。

建築設計・企画・監理

株式会社 始原社

薪ストーブが似合う家のポイント

その1 それは木と土で造ります。

木はどんな木でも無垢材であれば良いと思う人がほとんどですが、違うんです。外国産材でも国産材でもできるだけ樹齢を重ねた材を使う事です。それから大事な事は乾燥です。人工乾燥ではなく、時間はかかりますが自然乾燥が最適です。

ではどのようにして造るのか？

日本が誇る大工さんによる伝統工法が最適です！！
ですが…、そんな事ができる大工さんがいるの？
大丈夫です。まだ各地方には一握りではありますが、
そのような仕事を続けている職人がおります。
伝統の技術を、若い人に受継いでもらう為にも、
伝統工法で家を発注してくれる方が必要なのです。

土は

日本の風土に適した土塗り壁がおすすめですが、工期やコストの面でひと工夫が必要です。せめて壁は全て漆喰塗りにしましょう。調湿・消臭や和洋の空間にうまく溶けあいます。それから三和土といって、土と石灰・岩塩を混ぜ合わせたタタキ土間も薪ストーブと最高に相性が良いです。

土から変化した物として

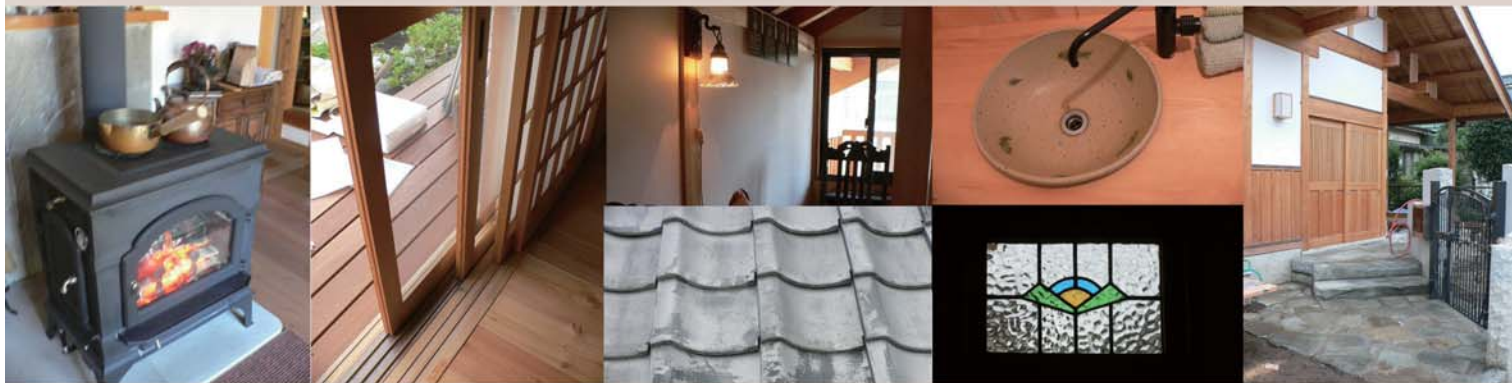
瓦があります。屋根は外観の雰囲気を決定づける最良のアイテムです。(和・洋どちらでもOK)レンガやタイルもできるだけ工業製品は避けて、手づくりの物を選びたいものです。石は、できるだけ地場産の石材を利用する事です。例えば大谷石や鉄平石、真田石。私の地元では、クヌギ石を使っています。

その2 工業化製品に頼らない。

アルミサッシ・システムキッチン・ユニットバス
便利でキレイな物が沢山出回っていますが、何か
よそよそしい感じがしてしっくり来ません。照明
器具やカーテンもそうです。工業化製品の安易な
使用は極力避けたいものです。人の手によって造
り出された物は、空間を決定づける大事な要素です。

その3 多国籍が隠し味になります。

本物の良い手づくりの物はインターナショナルです。
ステンドグラスや照明器具…布…。薪ストーブもその
代表と言えます。ちゃんとした職人達が手仕事で造
った本物同士。人の住む空間にうまく響きあいます。



建築設計・企画・監理
株式会社 **始原社**

群馬県高崎市江木町 895-1 La foresta 101
TEL:027-324-7123 FAX:027-325-4146
URL:<http://www.sigensha.info/>
e-mail:sigensha@peach.ocn.ne.jp